

演劇・映画の専門図書館

SHOCHIKU OTANI LIBRARY

公益
財団法人

松竹大谷図書館ニューズレター

■ No. 252(2019年3月) ■

平成31年3月8日発行

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 2月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『義経千本桜 すし屋』	○			
	『暗闇の丑松』	○			
	『団子売』			○	○
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○			
	『當年祝春駒』				
	『名月八幡祭』	○			
新橋演舞場	『華の太夫道中』	○		○	○
	『おばあちゃんの子守唄』	○			
	還暦&噺家生活四十周年記念桂米團治 独演会			○	
E Xシアター六本木	六本木歌舞伎『羅生門』	○		○	
大塚国際美術館	システィーナ歌舞伎『TAME TOMO』	○		○	
南座	『滝沢歌舞伎ZERO』			○	○
松竹座	『天下一の軽口男』			○	

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

梅田芸術劇場メインホール	1月	『新演出版 ミュージカル マリー・アントワネット』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	2月	劇団民藝『正造の石』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	1月	人形劇団ブーク『怪じゅうが町にやってきた』プログラム
国立劇場小劇場	1月	『邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会』プログラム 『春むかえ 田峯と西浦の田楽』プログラム
国立文楽劇場	1月	『文楽公演』プログラム、床本
	2月	『浪曲名人会』プログラム
ザ・スズナリ	1月	はえぎわ『桜のその菌』プログラム
座・高円寺1	2月	流山児★事務所『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』プログラム
シアターグリーンBOX in BOX THEATER	2月	Pカンパニー『拝啓、衆議院議長様』プログラム
下北沢「劇」小劇場	2月	東京シェイクスピア・カンパニー『喜劇・ロミオとジュリエット』プログラム
シアタークリエ	1月	『レベッカ』プログラム
下北沢シアター711	2月	オフィスコッターネ『夜が掴む』プログラム ウォーキング・スタッフ『虎は狐と井の中に (仮)』プログラム
新宿スターフィールド	2月	チーズ theater『接点 v o l . 1』プログラム
本多劇場	2月	大森カンパニー『あじさい』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	2月	『父』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	2月	トム・プロジェクト『芸人と兵隊』プログラム

(新着資料案内 続き)

東京芸術劇場プレイハウス	1月	『ナターシャ・ピエール・アンド・ザ・グレート・コメット・オブ・1812』プログラム
東京宝塚劇場	2月	宝塚歌劇星組『霧深きエルベのほとり』『ESTRELLAS』プログラム
俳優座劇場	2月	オペラシアターこんにゃく座『遠野物語』プログラム
博多座	2月	宝塚歌劇宙組『黒い瞳』『VIVA! FESTA! in HAKATA』プログラム
博品館劇場	2月	『SORAは青い』プログラム
		『泪橋ディンドンバンド 泥まみれの月』プログラム
明治座	2月	『水谷千重子50周年記念公演』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『AAC』Vol.99	『花道』39号
『Confetti』2019年MARCH	『御園座演劇図書館Newsletter』
『JPL』No.71増刊号, No.72	Vol.11
『TICKETS GO!GO!』Vol.88	『大向う』平成31年3月号
『the座』99号	『伝統文化新聞』2019年新年号, 153号
『あぜくら』2019年2月号	『日本芸術文化振興会ニュース』平成31年2月号, 3月号
『ほうおう』2019年4月号	『日本照明家協会誌』2019年2月号
『テアトロ』2019年3月号	『日本舞踊』71巻3月号
『ラ・アルプ』2019年3月号	『悲劇喜劇』2019年3月号
『演劇界』2019年4月号	『邦楽の友』平成31年3月号
『歌舞伎 研究と批評』62号	

■ 映画雑誌 ■

『FLIX』2019年4月号	『ピクトアップ』2019年4月号
『SCREEN』2019年3月号	『映画テレビ技術』2019年2月号, 3月号
『TVガイド』2019年2/8号, 2/15号, 2/22号, 3/1号	『映画撮影』No.220
『おとなのデジタルTVナビ』2019年4月号	『映画秘宝』2019年4月号
『キネマ旬報』2019年3月上旬特別号, 3月下旬映画業界決算特別号	『衛星劇場プログラムガイド』2019年3月号
『シナリオ』2019年4月号	『日経エンタテインメント!』2019年3月号
『シナリオ教室』2019年3月号	『日本アカデミー賞協会会報』84号

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『劇場版ウルトラマンR/B セレクト!絆のクリスタル』	○				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『アクアマン』	『劇場版 ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか オリオンの矢』
『サタデーナイト・チャーチ 夢を歌う場所』	『九月の恋と出会うまで』

≫≫ 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書 籍 ■

『ずいひつ 背中の背中』	河竹登志夫 (著)	小学館スクウェア
『松竹会館』		[松竹]
『復刻版 諸國の人形芝居 人形劇カーニバル20周年記念』	河竹繁俊 (編著)	新葉社
『続・歌舞伎日録 二〇一三年七月から二〇一七年十二月まで』	渡辺保 (著)	私家版 (渡辺保)
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第10巻 映画界一般 (1941年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第11巻 映画界一般 (1942年 - 1943年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第12巻 映画界一般・『映画旬報』切抜 (1941年 - 1942年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第13巻 映画界一般・『映画旬報』切抜 (1943年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第14巻 映画批評 日本映画・外国映画 (1934年 - 1948年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第15巻 映画批評 外国映画 (1937年 - 1939年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第16巻 映画批評 日本映画 (1937年 - 1938年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第17巻 映画批評 日本映画 (1939年 - 1940年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第18巻 映画批評 日本映画 (1941年 - 1944年)』	東京国立近代美術館フィルムセンター (監修)	ゆまに書房

資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同/2018年12月~2019年1月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、早乙女富美江、キネマ旬報社、演劇出版社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、文学座、シナリオ・センター、劇団四季、株式会社日本舞踊社、愛知芸術文化センター、一般社団法人日本演出者協会、国立劇場、日本映画テレビ技術協会、産経新聞出版、有限会社合同通信社、デアゴスティーニ・ジャパン、シアタークリエ、博多座、関西・歌舞伎を愛する会、国立映画アーカイブ、企業メセナ協議会、神戸女子大学古典芸能研究センター、一般社団法人日本民間放送連盟、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、下野公久、公益社団法人日本俳優協会、ロングランプランニング株式会社、劇団民藝、藤沢市藤澤浮世絵館、船瀬和夫、シーエイティプロデュース、御園座演劇図書館、劇団俳優座、劇団銅鑼、若林さだ吉、公益社団法人日本照明家協会、名取事務所、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、丸善出版株式会社、新国立劇場情報センター、M&O p l a y s、東宝株式会社、(株)近代映画社、岩波ホール、NODA・MAP、公益社団法人日本演劇興行協会、阪急文化財団、日本シナリオ作家協会、劇団山の手事情社、劇団朋友、株式会社サンシャイン劇場、田中康義、公益財団法人ユニジャパン東京国際映画祭事務局、園田学園女子大学近松研究所、岩下志麻、銀座百店会、おもだか会、邦楽の友社、株式会社セクターエイティエイト K E N S Y O 編集部、児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会、劇団青年座、前進座、無声映画鑑賞会、日本近代文学館、人形劇団プーク、日本ウニマ (国際人形劇連盟)、世田谷文学館、黒澤明研究会会誌、名古屋芸能文化会、関西常磐津協会、日本映画テレビプロデューサー協会、日本劇作家協会、四季株式会社、銀座 博品館劇場、明治座、東京都江戸東京博物館、東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、博物館明治村、山風呂洋、株式会社東急文化村、ダブルアップエンタテインメント、小学館、国立歴史民俗博物館、ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ/オールスタッフ、北川れい子、株式会社パルコ、K A A T 神奈川芸術劇場、一般社団法人長唄協会

どうもありがとうございました

「京都映画ノンフィルム資料アーカイブ」セミナー&シンポジウム及び「映画資料特別展」報告

■セミナー&シンポジウム

日時：2019年2月6日（水）15:00～17:30
場所：京都大学 楽友会館 2階会議・講演室

■映画資料特別展

日時：2月1日（金）～2月11日（月）
場所：東映太秦映画村 映画文化資料館 2階
参加者：武藤祥子（2月6日）

古くから映画撮影所があった京都太秦には、貴重なノンフィルム資料が多く存在するが、いまや散逸・消失の危機にある。文化庁では、これらの資料を保存、活用するためのアーカイブの構築や運営、共同利用の促進等を目指した事業【文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業(撮影所における映画関連の非フィルム資料)】を2018年から行っている。この事業の一環として2月6日に開催されたセミナー&シンポジウムを聴講するため、京都大学の楽友会館に行ってきた。

ノンフィルム資料とは、映画に関わるフィルム以外の資料(台本、ポスター、スチール、プレスシート、プログラム、小道具、衣裳など)の事を指す。シンポジウムに先がけ、まずノンフィルム資料の関連展示が行われていた東映太秦映画村へ向かった。



東映太秦映画村映画文化資料館



映画文化資料館
2階映画資料特別展

東映太秦映画村は、撮影所に併設された映画のテーマパークとして大変有名であるが、多量のノンフィルム資料が保存されている事はあまり知られていない。映画村の団体入口である大手門の正面にある映画文化資料館は、1階が美空ひばりの出演作の資料が展示された「美空ひばり座」。2階は各社歴代の名作のスチールが展示された「写真で綴る日本映画史」や、貴重な撮影機材、牧野省三賞関連資料、各社映画人の関連資料を展示した「映画の殿堂」など、映画好きには堪らない空間となっている。この2階の階段周りの三方の壁と展示ケースに、今年度事業で修復された台本やポスターが、修復処置の概要パネルと共に展示されており、その他にも所蔵資料の中から多種の所蔵資料が展示されていた。そして今回は、特別に映画村社長の山口記弘氏のご厚意で、3階の非公開の資料室を拝見させて頂いた。

映画村は、オープン当初の1975年より意欲的に各社の映画資料を収集・整理・保存していたとの事で、資料室には元々東映が所蔵していた資料に加え、当時の関係者及び配給会社や映画館から収集した資料が、書架やマップケースにぎっぴりと保存されていた。東映、松竹、日活、東宝、大映など各社各年代のスチール、ポスター、台本、プレスシートなどが所蔵されている様子が、やはり親会社の松竹の資料を中心として、各社各年代の資料を保存している当館の資料と傾向が似

ているような気がした。また、すでにデータベースに入力済との事であったが、作品ごとにカード式の目録で資料を管理している所もまた、カード式の目録が今だ現役である当館としては、非常に親近感を覚えた。映画村の目録法は、まずキネマ旬報の封切リスト等から封切順に各社別の映画作品の目録カードを作るというもので、それに従って番号の振られた整理袋を用意し、それに資料を保存していくというものであった。また、監督や俳優などの人名からも検索が出来るよう、作品カードを人名順に配列したカードボックスもあった。資料収集が網羅的に行われていただけでなく、目録も網羅的に作成されており、この時代からすでにアーカイブの発想で整理がなされていた事が分かる。パソコンが無い時代の先人たちの努力に頭が下がる思いであった。シンポジウムに参加されるというお忙しいスケジュールのなか、丁寧に資料室をご案内下さった山口社長に、この場で改めて感謝を申し上げたい。

続いて午後は、京都大学の楽友会館に移動して、セミナーとシンポジウムを拝聴した。

第一部のセミナーでは、【第6弾】クラウドファンディングで、当館の映画スクラップの保存容器を制作して頂いた株式会社資料保存器材の取締役阿部祐貴氏より、本年度の事業で進めた、映画村のポスター、台本の修復事例について、詳しい報告がなされた。まずノンフィルム資料の問題点として、多くが近現代紙資料であり、酸化劣化による紙の角質化、インク等のイメージ材料の褐色、量が膨大である、などの課題が上げられ、これまでに行われた国立映画アーカイブでの補修事例が報告された。

次に今回の事業の補修事例として、まずポスター3点について、ドライクリーニング、粘着テープの除去(除去跡の補修)、破れ・折れの処置、フラットニング、裏打ち、非水性脱酸性化処置の作業が報告された。そし

て台本3点については、ドライクリーニング、腐食した綴じ金や劣化した粘着テープの除去、破れや欠損の修復などの処置、また今回の補修についてはデジタル化を前提とした処置なので、例えば台本の歪みなど、デジタル撮影に支障がない部分は、改善を行わないという事も説明がなされた。多量にある資料の補修については、資料全体の修理は難しいため、目的を明確にして「修復処置方針」を決定する事が大事であるという事であった。そして劣化の進行を防ぐことも重要であるということで、セミナーの最後には、当館のスクラップの保存容器の件も映画資料の保存事例として取り上げて頂いた。



シンポジウム会場内の補修事例展示



セミナーの様子

第二部のシンポジウムでは、映画村の資料室をご案内下さった山口社長を始め、国立映画アーカイブ主任研究員・岡田秀則氏、国立新美術館学芸課美術資料室長・谷口英理氏の三人が登壇、京都大学准教授・木下千花先生の進行のもと、ノンフィルム資料のアーカイブへの理解を深めるための意見が交わされた。

ノンフィルム資料の定義として、映画の完成品としてはフィルムが存在するが、ノンフィルム資料は映画ができる過程で作られるもので、映画が作られるためにはどのようなものが必要か、各段階で何が作られたか、といった映画の総体をつかむための資料である、という解説が改めてなされた。

また、アーカイブスとライブラリーはどう違うのか、という当館にとって大変興味深い話も出た。ライブラリーで扱っているのは二次情報の資料で、大部分が冊子体であり、同じものが複数形存在している。また目録を作成するときは、その資料に記載されている書誌情報(例：図書の本付など)を記録する。一方、アーカイブズは非図書資料(ライブラリーの論理では扱いきれないもの)を収集、手稿や原稿など一次情報を含んでいて唯一無二のものが多い。また複数ある資料でも個々の来歴に特殊性や重要性がある。例えば、書込がある資料は、複数あっても希少性が高い。資料自体に書誌情報が記載されていない。整理の仕方が総体(資料群)として扱われるものである、という意見が述べられた。

資料の寄贈については、ノンフィルム資料はほとんどが非売品で収集は寄贈による事が多いが、すでに所蔵している重複資料や映画と微妙にずれた資料が来た場合は、限定的に頂かざるを得ず、また寄贈資料のリスト作成や整理も何年後かになる事を説明しなくてはならないという、当館でも共通する悩みの話も出た。

保存・修復については、限られた予算の中で、修復をデジタル化との組み合わせの中で行うのが確実な流れであるが、映画資料を保存する人たちにも紙資料の保存や修復方法についてもっと学んでもらい、自分達でやる事を増やしていきたいという話が出た。確かに図書館業界では、公立図書館などによる簡易補修セミナーが開催されるなど、資料の劣化に対する問題や補修の実践についてはある程度学ぶ機会があるが、ノンフィルム資料においても保存・修復に関して学ぶ場が設けられる事が期待される。

今後の展開については、ノンフィルム資料が必要だと思う人をどう増やしていくかがポイントで、デジタル化による露出を促進する事で、世に向けて資料の重要性をアピールする事が重要であり、そうでなければ、文化的にノンフィルム資料の保存が定着している欧米に資料が流出していってしまう、という事であった。また一方で、ノンフィルム資料の利活用に関しては、展示や画像公開に向かない資料も多く、利用されない可能性がある資料も含めてアーカイブしなくてはならないが、展示に向かない資料は価値が認められにくいという、ノンフィルム資料独自の課題点も指摘された。

シンポジウム後の質疑応答では、補修や保存に関する質問から、資料保存業界の雇用に関する問題提示まで、熱心な質問があがった。国際標準の目録があるのか、といった興味深い質問もあったが、現在は存在していないとの事であった。特に著作権に関しては、映画自体の著作権が長年明確化していないままであり、ノンフィルムの資料についても「グレーゾーンのグレーゾーン」の状態であるという事で、利活用を難しくしているという話があった。そんな中、美術アーカイブの寄贈の場合は、寄贈者の著作権・隣接権も含めて寄贈してもらうという話は新鮮であった。せっかくデジタルアーカイブを構築しても、フェア・ユースに関するルールを整備しないと死蔵になる、という事で法を守ると同時に活用にむけて研究者が動く事が必要という話で、シンポジウムは終わった。

今回のセミナー&シンポジウムでは、資料の保存・修復に関する実践的な知識の他、ノンフィルム資料を取り囲む様々な問題が挙げられ、演劇・映画の専門図書館として、自分達が取り組むべき課題について改めて考えさせられた。ノンフィルム資料について学ぶ場は大変少ないので、今後も一般参加が出来るようなこうした機会に、知識や理解を深めていきたいと思う。

文部科学省共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」 ／研究拠点形成支援プログラム研究プロジェクト 2018 年度成果発表会

日時：2019 年 2 月 22 日・23 日

会場：立命館大学衣笠キャンパスアート・リサーチセンター多目的ルーム

参加者：井川繭子

松竹大谷図書館は、2014 年度より立命館大学アート・リサーチセンター（以下、ARC）と提携して、演劇の上演記録データベースを考証し発信する共同研究を行っている。

立命館大学 ARC は、日本文化を研究対象とする人文学研究者らが積極的にデジタル・ヒューマニティーズ型の応用的人文学研究に踏み出せるよう多様な日本文化研究プロジェクトのニーズに合せ、デジタル環境や設備を用意し、学術的レベルでの日本文化情報のデジタル・アーカイブを促進する研究拠点となっている機関である。研究プロジェクトを広く国内外より公募し、これまで蓄積してきた美術館・博物館を含む海外日本文化研究拠点との人的ネットワークを活用しながら、他大学・他研究機関の研究者との共同研究や国内外有力研究機関との連携、若手研究者の育成や研究成果の効果的な発信・社会還元を行い、デジタル・ヒューマニティーズ分野の“世界水準の研究拠点形成”を目指している。

松竹大谷図書館は、国内の研究機関の一つとして、このプロジェクトに参加しているが、先月京都の立命館大学で開催された 2018 年度成果発表会に参加してきた。2 日間で研究拠点形成支援プログラムの研究プロジェクトが 12 件、共同利用・共同研究拠点共同研究課題が 18 件と、合計 20 ものプロジェクトが国内外から参加して発表を行うため、各プロジェクトの発表時間は 20 分となっている。

松竹大谷図書館の研究課題は「演劇上演記録データベースを活用した、演劇資料画像検索閲覧システムの構築に関する研究」というテーマである。松竹大谷図書館が 1958 年の開館以来蓄積してきた演劇の上演記録をデータ化し、過去の記録についても再考証して将来的には公開できる形にすると共に、その記録に関連づける形で、松竹大谷図書館の所蔵する資料をデータベース上で公開するシステムを構築することが目的である。今回は、今年度の上演記録データベース考証作業の進捗状況と、公開運用中のデータベース（松竹大谷図書館 HP より利用できる検索閲覧システム）を活用した事例について発表した。

今年度の成果としては、ジャンルを「新派」に限定した戦後の新派上演年表

http://www.dh-jac.net/db/nenpyo/search_shinpa.php を今年度中に公開することができた。また、昨年中には藤澤浮世絵館での展覧会「松竹大谷図書館所蔵 3D 浮世絵歌舞伎組上燈籠の世界」の開催や、組上燈籠絵をデザインしたブックカバーの商品化も実現できた。また、ハワイ大学マノア校が所蔵する GHQ 検閲関連資料“Stanley Kaizawa Collection”が公開され、当館が所蔵する GHQ 検閲台本との関連性もデータベース上で研究できる環境が整いつつある。このように、データベース上で所蔵資料を公開することにより、新たな利活用が可能となり、他機関との協力関係も得ることができた。

他のプロジェクトの成果発表も、それぞれ興味深く参考になる点も多かった。国内外の番付や浮世絵のデジタル化を継続的に行っているプロジェクトや、蓄積したデータをバーチャルリアリティやゲームの技術を用いて、効果的に発信する方法を研究しているプロジェクトなど、人文系の研究者と情報科学系などの研究者が共同で行うプロジェクトならではの事例が数多く発表された。また、それらのプロジェクトを支える ARC のサポートボードメンバーによるワークショップの開催もあった。発表の合間には、各プロジェクトの成果をデジタル展示するコーナーも設置されていて、それを見ながら参加者の間でお互いのプロジェクトへのアドバイスや情報交換もできて、大変充実した 2 日間となった。



立命館大学アート・リサーチセンター外観



プロジェクト別展示ブース

3月18日より
始まります!

所蔵資料展示 第75回「初世尾上辰之助」展

展示期間:平成31年3月18日~4月24日/於 閲覧室

本年は、昭和62[1987]年3月28日に40歳で逝去した、初代尾上辰之助の三十三回忌にあたります。2月歌舞伎座では、「初世尾上辰之助三十三回忌追善狂言」として『義経千本桜 すし屋』『暗闇の丑松』『名月八幡祭』が上演され、話題を呼びました。

初代尾上辰之助は二代目尾上松緑の長男で、昭和21[1946]年10月26日東京に生まれました。昭和27[1952]年2月歌舞伎座にて初代尾上左近を名乗り初舞台を踏み、昭和40[1965]年5月歌舞伎座にて初代尾上辰之助と改名。昭和50[1975]年9月には舞踊藤間流家元五代目藤間勘右衛門を襲名しました。四代目尾上菊之助(=七代目尾上菊五郎)、六代目市川新之助(=十二代目市川團十郎)と共に昭和40年代前半、「三之助ブーム」で人気を集め、口跡に優れ、時代物、世話物、新歌舞伎、歌舞伎十八番ものと役柄は幅広く、多くの舞台で観客を魅了しました。シェイクスピア劇や新派に出演し、TVドラマやクイズ番組へも出演するなど、歌舞伎以外でも活躍します。昭和61[1986]年2月、病のため入院し数ヶ月間の療養後、11月国立劇場『仮名手本忠臣蔵』で舞台へ復帰しますが、昭和62[1987]年3月28日40歳で急逝。4月の大阪新歌舞伎座で久々に七代目尾上菊五郎、十二代目市川團十郎と競演し、『白浪五人男』と『土蜘蛛』に出演予定でしたが、叶いませんでした。最後の歌舞伎の舞台は、昭和62年1月国立劇場『雷神不動北山櫻』で、糸寺弾正を初役で演じました。昭和62年2月5日、国立劇場にて「第30回日本舞踊協会公演」で五代目藤間勘右衛門として踊った『野路の梅』が、最後の舞台となりました。平成14[2002]年、長男の二代目尾上辰之助が四代目尾上松緑を襲名する際、三代目尾上松緑を追贈されています。

今回の展示では、初代尾上辰之助の在りし日の舞台写真を中心に、関連資料をご紹介します。

《展示資料一覧》

●スチール写真

『倭仮名在原系図 蘭平物狂』昭和29[1954]年10月歌舞伎座

一子繁蔵(初代尾上左近=初代尾上辰之助)、奴蘭平(二代目尾上松緑)

『六代目尾上菊五郎追善 四代目尾上菊之助 八代目坂東薪水 初代尾上辰之助襲名披露口上』

昭和40[1965]年5月歌舞伎座:初代尾上左近改め初代尾上辰之助

『君が代松竹梅』昭和40[1965]年5月歌舞伎座:松の君(初代尾上左近改め初代尾上辰之助)

『義経千本桜 釣瓶鮎屋の場』昭和52[1977]年7月28日NHKホール 第2回NHK伝統芸能の会
いがみの権太(初代尾上辰之助)

『倭仮名在原系図 蘭平物狂』昭和53[1978]年2月歌舞伎座:奴蘭平(初代尾上辰之助)

『義経千本桜 大物浦の場』昭和53[1978]年6月国立劇場:新中納言知盛(初代尾上辰之助)

『鏡獅子』昭和53[1978]年9月新橋演舞場:獅子の精(初代尾上辰之助)

『勸進帳』昭和53[1978]年12月京都南座

常陸坊海尊(二代目市村吉五郎)、武蔵坊弁慶(初代尾上辰之助)、源義経(二代目澤村藤十郎)

『棒しばり』昭和54[1979]年2月歌舞伎座

太郎冠者(十代目市川海老蔵=十二代目市川團十郎)、次郎冠者(初代尾上辰之助)

『夏祭浪花鑑』昭和56[1981]年6月国立劇場:団七九郎兵衛(初代尾上辰之助)

『三人吉三白浪』昭和57[1982]年2月歌舞伎座

お嬢吉三(七代目尾上菊五郎)、和尚吉三(初代尾上辰之助)、お坊吉三(十代目市川海老蔵=十二代目市川團十郎)

『唐津かんねどん』昭和58[1983]年2月歌舞伎座:かんねどん(初代尾上辰之助)、狐(二代目尾上左近=四代目尾上松緑)

『江戸の夕映』昭和58[1983]年2月歌舞伎座

旗本堂前大吉(初代尾上辰之助)、旗本本田小六(十代目市川海老蔵=十二代目市川團十郎)

『梅雨小袖昔八丈』昭和58[1983]年4月歌舞伎座:髪結新三(初代尾上辰之助)、家主長兵衛(三代目河原崎権十郎)

『東海道四谷怪談』昭和58[1983]年6月歌舞伎座:直助権兵衛(初代尾上辰之助)

『お祭り』昭和59[1984]年5月歌舞伎座:芸者おきよ(四代目中村雀右衛門)、鳶頭藤松(初代尾上辰之助)

『六歌仙容彩 文屋』昭和59[1984]年9月歌舞伎座:文屋康秀(初代尾上辰之助)

■歌舞伎以外の初代尾上辰之助の舞台■

『羅生門』昭和51[1976]年4月新橋演舞場:次郎(初代尾上辰之助)、沙金(太地喜和子)

『オセロー』昭和52[1977]年4月新橋演舞場:イヤゴ(初代尾上辰之助)

『リチャード三世』昭和55[1980]年11月サンシャイン劇場:リチャード三世(初代尾上辰之助)

●冊子『四代目尾上菊之助 初代尾上辰之助 八代目坂東薪水 襲名披露掌読本』

昭和40[1965]年5月歌舞伎座 六代目尾上菊五郎追善五月興行

●雑誌『演劇界』昭和43[1968]年8月号 演劇出版社発行

表紙:初代尾上辰之助『菅原伝授手習鑑 寺子屋』松王丸

●図書『現代若手歌舞伎俳優集4 尾上辰之助』昭和48[1973]年2月15日

日藝出版発行 萩原雪夫編

●雑誌『藤盛』追悼号(第16号/昭和62[1987]年9月)藤間流藤盛会発行

初代尾上辰之助が五代目藤間勘右衛門として家元をつとめた日本舞踊藤間流の流誌



「四代目尾上菊之助 初代尾上辰之助 八代目坂東薪水 襲名披露掌読本」(表紙)※展示では開いて展示しています

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2019（平成31）年2月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

有限会社合同通信社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

個人（敬称略）

谷智子

どうもありがとうございます



■編集後記■
▼右に記しましたように、ただいま松竹大谷図書館は春期特別整理休館となっております。開館中は使用できない閲覧室の机を広く利用して、様々な資料の整理に取り掛かっています。休館中はご迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。さて今年も、事務所内に雛人形を飾りました。雛祭りのケーキをいただきました。スタッフ皆で美味しくいただきました。まだ寒さが残る日々ですが、春を先取りしたような気持ちになりました。

■春期特別整理休館のお知らせ■
平成31年3月2日（土）より
3月17日（日）まで
資料整理のため休館いたします。
3月18日（月）より
通常通り開館いたします。



●利用案内●
開館時間
平日午前10時～午後5時
休館日
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。
入館料 無料
閲覧 館内閲覧のみ
●交通案内●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / Tel 03-5550-1694

公式HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>